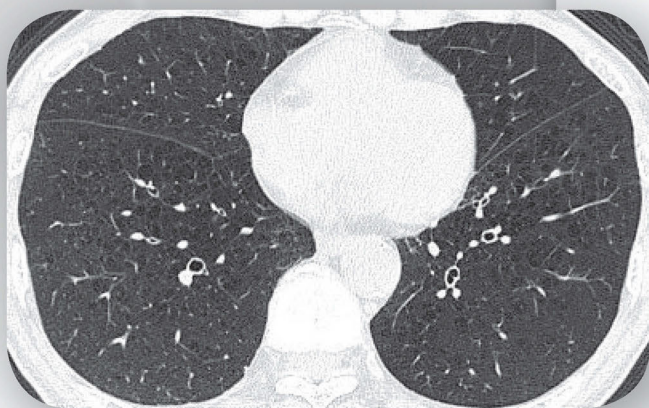
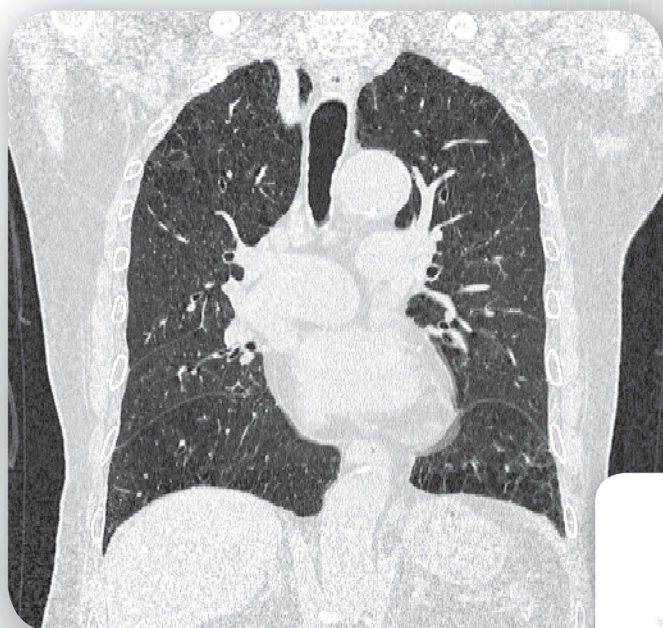


特 集

COPD(慢性閉塞性



(写真：p415, 427, 469より)

肺疾患)の画像診断

序説

慢性閉塞性肺疾患(chronic obstructive pulmonary disease ; COPD)は、その高い有病率を背景に画像診断医が日常診療にて比較的好く遭遇する疾患である。そのため、その臨床像、および基本的な画像所見については熟知しておく必要がある。またCOPDは各種の画像定量解析が盛んであり、呼吸機能と関連した非常に興味深い研究が多数報告されている。これらの定量解析から得られた知見を通常の画像診断に還元することによって、COPDの画像診断をより深くすることができる。

このような状況を鑑み、本特集では最初に画像診断医が知っておくべき臨床的事柄を川田奈緒子先生に、非常に明晰に、かつ画像診断医にもわかりやすく解説いただいた。次いで、CTによるCOPDの画像所見と、最新の画像定量解析について、肺気腫および気道性病変に関しては神山久信先生に、そして肺血管病変、肺高血圧については松下彰一郎先生に解説いただいた。COPDは生理学的に動的な疾患であり、この生理的な動態を評価できるMRIおよび核医学の有用性、そして最新の定量解析について、それぞれ大野良治先生ら、本田憲業先生に紹介、解説いただいた。さらに、最新の画像解析法の1つである4D-CTを用いた呼吸dynamic CTによるCOPDの病態解析について山城恒雄先生に解説いただいた。最後にCOPD関連疾患として気腫合併肺線維症(combined pulmonary fibrosis and emphysema ; CPFE)、および喘息とCOPDのオーバーラップ(asthma and COPD overlap ; ACO)の画像所見と定量解析について永谷幸裕先生らに解説いただいた。

本特集が読者諸氏の日常診療に役立ち、また肺疾患の画像定量解析など臨床研究への入り口となることを確信している。ご多忙のなかご執筆いただきました諸先生に感謝いたします。

松岡 伸